

血管内治療部

1. スタッフ（平成24年4月1日現在）

部長（准教授） 難波 克成
 医員（准教授） 齋藤 力
 （講師） 中田 学（放射線科講師）

2. 血管内治療部の特徴

血管内治療部は平成17年4月に新設され、平成18年3月に、最新鋭の頭部専用血管撮影装置（Philips社製Alura）、および全身用血管撮影装置（Siemens社製Axiom）を備えた現在の新しい施設に移転した。脳神経分野、全身分野、心臓血管分野から構成されている。

脳神経分野では、脳、脊髄、頭頸部の血管病変全般を対象とし、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳動脈閉塞性病変、脊髄血管奇形、頭頸部腫瘍、頭頸部血管奇形などの診断および治療を行っている。観血的手術を行うことなく、非侵襲的に治療を行う画期的な先端医療を担っている。

平成23年12月には、難波克成准教授が日本脳神経血管内治療学会の指導医に認定された。引き続き、栃木県におけるこの分野の発展に貢献する。

全身分野では、放射線科中田学講師が中心となって、放射線科スタッフと協力して診断と治療を行っている。主に腹部臓器の血管撮影、CTガイド下生検および塞栓術、動注療法など、幅広い診断と治療を行っている。手技は肝臓に対する肝動脈塞栓を中心に、胸腹部血管奇形塞栓、CTガイド下生検、動注療法、胸腹部外傷性出血の緊急塞栓止血、腹部血管塞栓に対する血栓溶解、シャント血管形成など多岐にわたる。

心臓血管分野は平成22年11月より新設され、胸腹部大動脈瘤のステントグラフト治療を手術室で行っている。年間の症例数は100件以上で、栃木県で最大の症例数を誇る。特に、腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤のステントグラフト実施施設に認定され、胸部大動脈瘤については栃木県唯一の認定施設である。

専門医

日本脳神経血管内治療学会専門医、指導医 難波 克成
 日本脳神経外科学会専門医 渡辺 英寿
 難波 克成

3. 診療業績・クリニカルインディケーター

脳神経分野

脳血管撮影件数 302件

手術症例病名別件数

脳動脈瘤	21例
動静脈瘻・脳動静脈奇形	12例
血管形成術	30例
脳腫瘍	9例
脊髄血管奇形塞栓	4例
頭頸部顔面血管塞栓	6例
総数	82例

全身分野では総数477件の検査・治療を行っており、中でも肝動脈塞栓術が最多である。

心臓血管分野では総数103件の大動脈ステントグラフト留置を行った。

4. 事業計画、目標

研究活動

平成22年度11月、「ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発」において科学研究費補助金を受託し、先端医療技術開発センターにて動物実験を行っている。

臨床活動

脳神経分野では2011年度は2010年度と比較して、検査・治療数において微増した。紹介が増加し、血管内治療が広く一般医家、市民に浸透してきた印象を受ける。2012年度も少スタッフではあるが、検査、治療数の増加を目標とする。2011年に新たな脳梗塞急性期治療用デバイスが認可され、急性期脳梗塞に対する血管内治療の可能性が広がった。今まで当部門で治療対象としていなかったこの分野への参加を計画している。また、頭頸部領域血管病変は各科が協力しての多面的治療が必要であり、積極的な連携を図りたい。

全身分野では2006年以降年を追うごとに症例数が増加しており、2011年度は477症例を治療した。血管内治療の有用性が広く認識されている証であると考えられる。

心臓血管分野では2010年11月に開設され、2011年度には103症例の大動脈ステントグラフト留置を行った。現在のステント留置は透視装置下で行っているが、より安全で精度の高い手術を行うため、血管撮影装置を備えた手術室（ハイブリッド手術室）への移行を計画中である。